

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果

**達成度（評価）**  
**A**：十分達成できている  
**B**：おおむね達成できている  
**C**：やや不十分である  
**D**：不十分である

<b>1 前年度 評価結果の概要</b>	<p>○評価項目の14項目中11項目について、十分達成することができた。「おおむね達成」の状況である3項目については、以下のようにして改善を図っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「平日の家庭学習時間が1時間以上になる生徒の割合を80%にする。」については、現在の受動的な意識から能動的な意識へと成長させる必要がある。そのために、授業と連動した課題やより効果的な自主学習ノートの在り方など、生徒各自が家庭学習の質を高める方を講じていく。</li> <li>・「部活動の推進」については、部活動の入部者が少なくなっているのが実情である。部活動の充実を目指すために、武雄市の方針に沿って地域部活動への移行を視野に入れ効果的な部活動運営の推進を図る。</li> <li>・「校務の効率化」については、時間外勤務の月平均は約3.5時間であり、年度当初より短くなっている。業務の効率化や教職員の負担軽減と生徒育成のために効果のある業務とを対比しながら、引き続き業務の精選を模索していく必要がある。</li> </ul> <p>○今年度、取り組んだ内容について、特に効果が出てきている項目については、引き続き重点項目として取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「思考力・判断力・表現力の深まりを目指す授業の実践」について、昨年度に引き続き「対話学習を取り入れること」を中心に取り組んだ。教職員がお互いに他教科のノウハウから学ぶという意識の向上が見られた一年間だった。また、週に1回、朝の会で「[川中タイム] 継続的なコミュニケーション活動」を行うことで、生徒たちの意識の変化が見られ効果が出てきている。来年度も引き続き全職員の共通理解・共通実践のもと、思考力・判断力・表現力の向上に努める。</li> <li>・「ICT機器を利用した学ぶ意欲を高める指導の工夫」については、肯定的な回答が多い。特に、昨年度から生成AIを活用した授業など最新技術も積極的に導入してきており、業務改善、授業改善への効果は大きい。働き方改革や個別最適な学び、協働的な学びの充実のために、引き続き活用していく。</li> </ul>
----------------------	--

<b>2 学校教育目標</b>	<b>自立の精神に満ちた豊かな人間力の育成</b>
<b>3 本年度の重点目標</b>	<b>(1) 豊かな人間性と社会性の育成 (2) 豊かな学びの充実 (3) たくましく生きるための健康の推進 (4) 地域との共生と郷土愛の醸成</b>

<b>4 重点取組内容・成果指標</b>	<b>中間評価</b>	<b>5 最終評価</b>
----------------------	-------------	---------------

重点取組項目	重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
					A	B	A	A	A	A	
●学力の向上	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○生徒にとって魅力的だと思えるようなめあての提示と教材を示す具体的な目標とする。	○生徒にとって魅力的だと思えるようなめあての提示と教材を示す具体的な目標とする。生徒70%以上	・「めあて」については、生徒たちが興味をもち、本時の内容を示す具体的な目標とする。教材については課題の難易度を意識する。	A	・8月に行った生徒アンケート「生徒の学習意欲を高めるためめあての提示と工夫をしている」の質問に対して、肯定的な回答をする生徒の割合は90%以上であった。また、教師の回答は100%であったので、教師の意図するめあてが生徒にとって具体的な目標となっている。今後、より具体的なめあてを設定することで、生徒の学習意欲の向上につなげたい。	A	・1月に行った生徒アンケート「生徒の学習意欲を高めるためめあての提示と工夫をしている」の質問に対して、98%の生徒が肯定的な回答を示し、教師の回答も100%が肯定的であった。具体的なめあての提示によって、生徒が見過ごす活動に取り組むことができ、生徒のふり返りの質も向上した。	A	・生徒、教師のアンケートの回答から効果があつていると考えられる。 ・生徒、教師ともに肯定的であり、学力の向上につながっていることがわかった。継続をお願いしたい。 ・工夫や研究をする中で、成果を感じながらも課題を抱えていると感じる。工夫と研究を重ねることは大変だが、生徒には伝わっていると思う。	・学力向上対策CD ・研究主任
	○思考力・判断力・表現力の深まりを目指す授業の実践	○「主体的・対話的な学びで、自分の考えが深まったり、広がったりした」、肯定的な回答をする生徒75%以上	○「主体的・対話的な学びで、自分の考えが深まったり、広がったりした」、肯定的な回答をする生徒75%以上	・単元に見通しをもって、活動できるように、生徒の情報活用能力の向上を進める。 ・「対話学習」については、話し合いの目的や意図などを示し、主体的に学ばせる。 ・説明するときは「根拠や理由」を明確にして「結論」を示し、自分の考えを表現させる。	B	・8月に行った生徒アンケート「主体的・対話的な学びで、自分の考えを深めたり広げたりする」の質問に対して、肯定的な回答をする生徒は90%以上であった。今後も、授業や川中タイムでの生徒どうしの対話や、タブレット上でのふり返りシートを用いた対話活動を通して、生徒の思考力や表現力の向上を図る機会を設定していきたい。	A	・1月に行った生徒アンケート「主体的・対話的な学びで、自分の考えを深めたり広げたりする」の質問に対して、肯定的な回答をする生徒は92%であり、8月より肯定的な意見が増えている。9月以降、川中タイムを10回以上行い、充実した対話活動を通して、生徒が自分の意見や考えを表現することができた。	A	・対話活動を大切にされているのはとてもよいことだと思った。 ・対話活動を多く取り入れ、生徒の思いや表現力の向上につながっていることが分かった。 ・手立てを工夫し、これからも思考力・表現力を伸ばしてほしい。	・学力向上対策CD ・研究主任
	○家庭と連携した学習環境づくり	○平日の家庭学習時間が1時間以上になる生徒75%以上	○平日の家庭学習時間が1時間以上になる生徒75%以上	・学習で、自分の学習方法や計画について検討改善する機会を設定する。 ・家庭学習では、授業と連動した課題を設定し、さらに優秀な自学ノートの取り組みを紹介し、互いに高め合う。 ・小中連携アンケートを参考にして、生徒と保護者に呼びかける。	B	・8月に行った生徒アンケート「学校の授業時間以外に平日の家庭学習を1時間以上している」の質問に対して、肯定的な回答をする生徒は80%以上であった。今後は、モデルとなる優秀な自学ノートの取り組みを紹介し、生徒間で共有することで、教師は家庭学習の内容を検討し、計画的に学習に取り組む指導を継続して行いたい。	A	・1月の生徒アンケート「学校の授業時間以外に平日の家庭学習を1時間以上している」の質問に対して、肯定的な回答をする生徒は85%で、8月より2%上昇した。教師のアンケートで肯定的な回答は80%で、前回より10%上昇した。教師は自学ノートの取り組みを振り返り、生徒会活動で他者のノートの実践を紹介し、集会では学習効果を高めるポイント聞き、家庭学習が充実した。	A	・家庭学習が充実しない一因として、スマホやタブレットの所有率の増加があるのではないかと思う。スマホの使用について、生徒自ら考えられる機会があると思うのではないかと思う。 ・家庭学習の効果高める努力をされていると思う。 ・よい自学ノートをまねる。そしてさらによいものに変えていく取組はよいことだと思う。	・学力向上対策CD ・研究主任
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「道徳の授業で自分の思いや考えを深めたり、自分とは違う思いや考え方に触れたりすることができた」の質問に肯定的な回答をする生徒90%以上	○「道徳の授業で自分の思いや考えを深めたり、自分とは違う思いや考え方に触れたりすることができた」の質問に肯定的な回答をする生徒90%以上	・各学年道徳の授業に年間35時間取り組む。 ・全学年「道徳」の授業を保護者等へ公開する。	A	・週に1回ペースで道徳の授業に取り組むことができおり、「道徳の授業で自分の思いや考えを深めたり、自分とは違う思いや考え方に触れたりすることができた」の質問に肯定的な回答をする生徒は96%だった。	A	・年35時間の授業実施に取り組めた。中間評価と同様の質問に肯定的な回答をする生徒は96%に増えた。 ・ふれあい道徳の実施を年に1回実施することができた。	A	・他者の考えを受け入れる心の豊かさにつながっていると感じる。 ・道徳を通した人間力向上の取り組みを期待する。 ・計画通りの授業実践に取り組む、生徒が十分に理解していることがうかがえる。	・道徳教育推進教員
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめや差別についての理解が深まったと感じる生徒70%以上	○いじめや差別についての理解が深まったと感じる生徒70%以上	・人権週間の実施。 ・道徳や学活等で人権教育を行う。 ・早期発見・早期対応できるように、生徒の変化や様子に対して、積極的に情報交換を行う。 ・いじめ防止等について、定期的なアンケートの実施した教員80%以上	A	・「人権について理解が深まっているか？」の項目で、「とてもそう思う」「そう思う」と答えた生徒が94.4%であった。引き続き、生徒の人権感覚を磨く授業や活動を取り入れた。 ・いじめ防止等について、定期的なアンケートの実施や日頃の情報交換によって早期発見、早期対応ができており、学年や管理職と連携を図りながら対応できている。	A	・いじめ防止等について組織的対応ができており、回答した職員が100%であった。職員一人一人のいじめ防止等への意識が高く、生徒への関わりと関係づくり、情報共有、迅速な対応ができていると感じる。 ・「人権について理解が深まっているか？」の項目で、全学年の95%以上の生徒が、肯定的に答えている。人権週間中には人権課題に触れる時間を設定できた。	A	・いじめやスマホ対応等、今日の課題への取組に頑張ってください。 ・いじめが全くないことが理想だが、多感な生徒がいる中で早期対応ができていると感じる。 ・いじめの早期発見・対応は、先生と生徒のコミュニケーションが大切だと思う。 ・中には生徒間の常習的なからかいで辛い思いをしている生徒もいるようだ。SCなどにも関わる対応等を望む。	・生徒指導主事 ・人権・同和教育
	●◎生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれてると思う」と回答した生徒80%以上	●「先生はあなたのよいところを認めてくれてると思う」と回答した生徒80%以上	・1年生は職業調べや職場見学、2年生は職場体験、3年生は全校のリーダー的行事、立志式などを通して、将来の夢や目標について考え、深める機会をもつ。 ・4月、1月に、全生徒に、抱負や目標を決めさせ、夢を実現させるためにどのようにすればよいかを具体的に確認させ、1年間の見直しをもたせる。	A	・行事等の事前と事後に、「キャリアパスポート」に目標や振り返りを記入している。また、外部から講師を招き、ライフプランニングの授業を行った。アンケート結果では、「将来の夢や目標を持っている」に比べて、肯定的な回答をした生徒が、76.1%と設定値を上回っている。保護者も78.4%が肯定的な回答であった。今後も、行事等や前目の際により具体的な夢や目標をもてるように、指導の継続を図る必要がある。	B	・行事等の事前と事後に、「キャリアパスポート」に目標や振り返りを記入している。また、外部から講師を招き、ライフプランニングの授業を行った。アンケート結果では、「将来の夢や目標を持っている」について、肯定的な回答をした生徒が、72%と設定値を下回っている。中間結果よりも下がっている為、後期の取り組み内容の見直しを行う必要がある。保護者は80%が肯定的な回答であった。次年度も、行事等や前目の際により具体的な夢や目標を記入するなど目標設定を行う場面をつくる必要がある。	A	・将来の目標設定は、家庭での話し合いも重要な部分と思う。三者面談の充実を期待したい。 ・様々な経験や職場調べなどで、どんな職があるのか把握してもらい機会の継続をお願いしたい。	・進路指導主事 ・各学年主任
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」生徒85%以上	●「健康に良い食事をしている」生徒85%以上	・食に関する意識調査を実施する。 ・食の自立につながるよう、お弁当の日を3回実施する。 ・食育タイムを月1回行う。	B	・「健康に良い食事をしている」と答えた生徒は90%と高いが、朝食欠食率が14%であった。食卓の内容も気になる生徒もおり、計画的に食育タイムを実施し、食に関して考える時間を継続していく。	A	・「健康に良い食事をしている」と回答した生徒は95%と増加した。 ・手作り弁当の日に、自分ができることを考え取り組んだ生徒は79%であった。 ・食育タイムを月1回行う。望ましい食習慣について考える時間を設けることができた。	A	・今の子供達の食に対する考え、実践について敬意を表したい。 ・食卓と健康は中学生の成長期において重要なので引き続きお願いしたい。	・食育・給食担当
	●健康を考えて行動できる能力の育成	●「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた生徒80%以上	●「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた生徒80%以上	・各学期に保健の授業を行った。毎月保健日を作り、自分の生活に役立ち立つ知識を提供する。	A	・熱中症対策や歯の強化月間など、時期に即した保健日を作り、発行し、実生活ですぐに活かせる内容を提供できた。 ・肯定的な回答をした生徒が全体で93%という結果だった。一学期は生活習慣病に関するないようだったので、身近に感じingではないかと考える。	A	・外部講師による保健指導を一学期に2回、二学期に3回行った。また、時期に即した保健日を作り発行し、実生活に役立ち立つ知識を提供できた。 ・全校生徒で肯定的な回答をしている割合が、96%であった。今後も健康や生活習慣についての授業を行う中で、自身の生活に落とし込めるような内容を入れていきたい。	A	・保健日だけの内容が充実していると思った。健康第一なのでこれからもお願いしたい。 ・自分の健康や生活習慣について、早い時期から取り組むことは大切だと思う。	・体育主任 ・養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日、学校閉庁日、部活動休業日、年次休暇取得推進日を設定し、職員に自分のための時間を取るように促す。 ・これで作成されたデータの有効活用を行う。	B	・校務の効率化について、30%の職員が、「あまりそう思わない」と答えている。会議の時間、業務の分担や業務削減と必要不可欠な業務と対比しながら、後期に向けて改善を図りたい。	B	・校務の効率化について、80%の職員が肯定的に答えている。時間外勤務の月平均は約34時間であり、軽減できているようだが、年休取得率は平均6.3日目標の半分を下回っている。業務削減や余白時間の創出に次年度も力をいれ取り組んでいきたい。	B	・先生方の働き方改革につながるよう、小さなことからでも「やめる・かえる・へらす」を保護者とともに考えていきたい。 ・教職員の仕事に対する責任からなかなか目標通り達成できないことは十分に理解する。 ・先生方の努力だけでは解決できない現実があると	・管理職
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○「特別支援教育に関する専門性や意識が向上した」と回答した教員80%以上	○「特別支援教育に関する専門性や意識が向上した」と回答した教員80%以上	・特別支援に関する研修会の実施。 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有。	B	・夏休みに職員研修を実施した。 ・来年度の新生で特学入級予定児童に対し、授業見学や相談会を実施し、情報共有ができた。	B	・特別支援に関する研修会を実施したが、「専門性や意識が向上した」と答えた職員は70%だった。次年度は、事前に困り感を把握し、実態に沿った研修を実施したい。	B	・全員が楽しい学校生活を送れる様サポートをしてほしい。 ・今後特別支援はより重要になっていくので、より高い専門性の向上が期待される。 ・本人や友達相互の思いなど、デリケートなこともあ	・特別支援教育担当

重点取組項目	重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
					A	B	A	A	A	A	
○ICT機器を利用した学ぶ意欲を高める指導の工夫	○ICT機器を利用した学ぶ意欲を高める指導の工夫	○「先生たちはわかりやすい授業にしたい」とICT機器を積極的に使っている」と思う生徒・保護者90%以上	○「先生たちはわかりやすい授業にしたい」とICT機器を積極的に使っている」と思う生徒・保護者90%以上	・電子黒板と生徒用タブレット端末を活用した授業研究会を実施すると共に、有効活用について研修を行う。また、リーディングDXIに関連し、ICT機器の活用を進める。	B	・学校評価アンケートの結果では、生徒・保護者の回答で「そう思う」以上の回答が9割を超えたことになった。 ・校内研修と並行し、ICT機器を活用する研究授業ができた。	A	・学校評価アンケートの結果では、「そう思う」以上の回答が生徒では全員、保護者でも、95%を超えることができた。 ・ほぼ全ての教員が、ICT機器を活用した授業研究を行うことができた。	A	・授業の中で十分に活用されていると感じた。 ・先生の準備が大変なのではないかと思う。 ・ICT教育の充実と心の教育のバランスを考える。 ・タブレットやICT機器は当たり前になりつつあると思うので、これまで同様使い方を工夫して活用してほしい。	・情報教育推進リーダー
	○地域と学校の相互の関わりを深める教育活動の推進(コミュニティスクール)	○地域人材を活用した授業や行事を年に5回以上実施する。	○地域人材を活用した授業や行事を年に5回以上実施する。	・地域の講師を招聘し、地域の伝統文化の継承を行う。 ・学校HPや配信メールにより、常に新しい情報を豊富に提供する。 ・学校・学級だより等を定期的に発行する。	A	・学習成果発表会での川巻の伝統芸能である篠笛の発表を行う。地域の講師に指導していただき、地域の伝統に触れることができた。	A	・川巻中学校は地域とのつながりが深いと思う」と回答した生徒・教員・保護者はそれぞれ90%以上で、取組目標の達成度の高さがそれぞれと表れている。 ・今年も地域の講師を招聘し、地域の伝統文化の継承を行うことができた。学校のHPの更新も毎週欠かさず行っている。	A	・伝統芸能の取入れやボランティア活動などに積極的な取組がなされている。 ・取組指導の後継者問題はありますが、生徒同士の指導なども取入れ伝統芸能を通して地域のつながりをお願いしたい。 ・地域行事にも生徒達が積極的に関わってくれている。	・文化的行事 ・管理職

<b>5 総合評価・次年度への展望</b>	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育</p> <p>・学校の教育目標の実現に向けて、様々な学校行事や学習活動に取り組むことができた。生徒は各々自己使命感をもち、描いた夢に向かって、地域や保護者に支えられながら確実に前進していった。この前向きな心とそれを支える地域・保護者とのコミュニティを次年度も大切にしていきたい。</p> <p>・配慮を要する生徒の実態が多様化し、専門知識の取得や連携の強化の必要性がある。次年度は、特別支援に関する実効的な研修会を実施し、生徒の実態に応じたより細やかな支援にチームで取り組んでいく。</p> <p>・部活動の地域展開が始まり、職員の時間外在校時間はやや減少しているが、職員の手こたえとして業務改革が進んでいると感じた。次年度は、市の改革方針に基づき、さらなる業務改革の取り組みを実施していく。</p> <p>・「思考力・判断力・表現力の深まりを目指す授業の実践」について、対話学習を取り入れる工夫や家庭学習の徹底に取り組んでいく。次年度も引き続き全職員で共通理解しながら取り組んでいく。</p>
-----------------------	--